

DX経営ビジョン

株式会社あじわい亭

目次

- 01 当社のDXビジョン
- 02 DXによって目指す姿
- 03 顧客接点のデジタル化と社内オペレーションのアップデート
- 04 DX戦略を推進するための体制
- 05 安全・迅速に活用するためのインフラ整備
- 06 DX推進における指標(KPI)について
- 07 コミットメントと社内外への発信

当社は、お弁当の提供を通じてお客様の「食の課題」を解決することを使命としています。変化の激しい現代において、お客様へより正確かつ迅速に価値を届けるため「アナログな業務からの脱却」と「データに基づく価値創造」をDXビジョンとして掲げます。

その実現に向けて、社内業務のデジタル化を推進し、情報共有および意思決定の迅速化を図ります。具体的には「グループウェア」の導入により、稟議書や休暇届、日報などの申請・承認・閲覧を一元化し、業務プロセスの効率化と可視化を実現します。

また、WEB発注システムの活用により、お客様の注文・変更・集計にかかる手間の削減を図り、入力ミスの防止と業務負担の軽減を実現します。これによりお客様にとって使いやすく、正確に注文できる環境を提供し、利便性の最大化を目指します。

これらの取り組みにより、間接業務の負担軽減と部門間連携の強化を図るとともに、従業員がより付加価値の高い業務に専念できる環境を整備します。さらに、蓄積されたデータを活用することで、継続的な業務改善およびサービス品質の向上につなげていきます。

私たちはデジタル技術を単なる「道具」ではなく、経営の「基盤」と位置づけ、以下の4つの変革を実現します

顧客利便性の追及

WEB発注システムを活用し、お客様の「注文・変更・集計」の手間をゼロに近づけます。ミスなく注文できる環境を提供し、お客様の利便性を最大化します。

デジタル化を活用した 接点強化

システムを通じて「お客様の声」を直接収集し、迅速にサービス改善へ反映します。デジタル化を単なる効率化で終わらせず、お客様のニーズを的確に把握し、献立開発や配送品質の向上につなげる「対話型DX」を推進します。

働き方の改革

グループウェアの導入により、稟議や各申請、日報などの社内業務をデジタル化します。場所や時間に縛られない情報共有を実現し、社員がよりクリエイティブな業務(商品開発や顧客サポート)に集中できる環境を整えます。

経営判断の迅速化

現場のデータ（受注や日報）をリアルタイムで可視化し、経験や勘だけに頼らない、データに基づいた迅速かつ正確な経営判断を行います。

社会への約束

デジタルの力で無駄（食品ロスや配送ロス、事務的ミス）を排除し、環境に配慮した効率的な運営を行うことで、食のインフラとして地域社会に貢献し続ける企業を目指します。

1.顧客接点のデジタル化戦略



利便性の徹底追及

初期費用・運用費用の無償化を継続し、顧客側の導入ハードルを最小化。FAX・電話注文からの移行を推進します。



受注データの活用

蓄積された発注データから注文傾向を分析。最適な献立提案や在庫管理の効率化を行い、食材ロスの削減と供給の安定化を両立します。

2.社内連携の強化と業務効率の向上



事務プロセスの自動化

グループウェア導入により稟議書や各届を電子ワークフロー化。承認の停滞を無くし、バックオフィス工数を削減します。



調整業務の効率化

採用面接の日程調整や社内会議の設定など、複数の社員が関わるスケジュール管理をデジタル上で完結させ、調整にかかる時間を大幅に削減します。

これらにより、対外的な価値向上と内部の生産性向上を同時に達成します。

最高責任者 (DXリーダー)	代表取締役	DXビジョンの策定、および投資の最終意思決定
推進事務局	総務課	全社的なスケジュール管理、社内規程の整備、および情報システム部の調整窓口
現場推進責任者	各部門長	各現場（工場、配送、事務）におけるデジタルツールの導入展開、および現場課題のフィードバック
技術支援・管理	親会社/情報システム部	ITインフラの構築・保守、セキュリティ管理、および専門的な技術アドバイス

DXを支える人材の育成・確保について

単に「人がいる」だけでなく、その人たちがどう能力を発揮するか（または育てていくか）を補足します。

デジタルリテラシーの向上

総務課および各部門長を中心に、グループウェア等の操作研修を定期的を実施。ITツールを使いこなし、業務改善や自ら提案できる「DX人材」を育成します。

専門スキルの補完

高度な専門スキルが必要なインフラ管理やセキュリティ対策については、親会社/情報システム部の専門知識を活用することで、常に最新かつ安全な技術水準を維持します。

柔軟かつ堅牢なITインフラの整備

当社では、WEB発注システムおよびグループウェアの運用基盤として、高度な信頼性を備えたプライベートクラウド（データセンター利用）を採用しています。自社内に物理サーバーを保有するリスクを排除し、専門のデータセンターを活用することで、最新の情報処理技術を柔軟に取り入れながら、災害時でも業務を継続できる安定したIT基盤を維持します。

次世代型セキュリティによる統制

デジタル化の推進に伴うサイバーリスクへの対策として、世界最高水準のセキュリティプラットフォームである「CrowdStrike（クラウドストライク）」を導入しています。親会社の情報システム部による主導のもと、エンドポイント（各端末）のリアルタイム監視と高度な防御体制を構築。最新の脅威に対しても遅滞なく対応できる環境を整えることで、DX推進の土台となる安全性を徹底しています。

親会社「情報システム部」による高度な統制

システムの運用基盤およびセキュリティ管理は、親会社の情報システム部が主導して行います。専門部署による24時間365日の監視、デバイス制限、多要素認証の導入など、安全なIT利用環境を整備し、DX推進の土台を固めます。

WEB発注

2027年3月までにWEB発注率70%を目指し「集計ミスの防止」と「事務コストの削減」につなげます。また、WEB化により捻出した事務処理時間を「お客様の声への対応」や「新メニュー開発」といった付加価値の高い業務に充てることで、顧客満足度の向上と商品競争力の強化を実現します。

- ・ **WEB発注率**：現状の40%から70%以上へ拡大
- ・ **事務工数削減**：受注集計および転記作業にかかる時間を月間40時間削減
- ・ **サービス改善**：月間50件以上、お客様の声を新メニューや配送オペレーションに反映

グループウェア

2027年3月までに稟議や休暇申請などの社内申請の電子化率90%以上を目指します。

- ・ **各種申請書**：申請から承認完了までの時間を24時間以内に行う
- ・ **情報共有の迅速化**：正社員の日報提出率を100%とし、それに対するフィードバックを行う
- ・ **バックオフィス業務の工数削減**：転記や集計に費やしていた時間を年間1,000時間以上削減

人材育成

新しく導入するグループウェアを、全社員が等しく使いこなせるよう教育機会を確保します。

- ・ **IT研修の実施回数**：年1回以上の全社員向けデジタルツール活用研修の実施

セキュリティ

情報システム部と連携した管理体制のもと、お客様の個人情報や取引データを安全に運用します。

- ・ **セキュリティ事故「ゼロ」の継続**：重大なサイバーセキュリティ事故の発生件数0件

最高責任者（代表取締役）は、デジタルの活用が当社の持続的成長に不可欠であるという強い意志のもと、自社ホームページ内に「DX推進に関する取り組み」のページを作成し、DXビジョン、戦略、および具体的なKPI（2027年3月までのWEB発注率70%等）を公開しています。

代表取締役自らが「食のインフラとしてデジタルを活用する」方針を明文化することで、お客様や取引先に対し、将来的な利便性向上と安全なサービス提供を約束いたします。

また、社内に対しては、デジタル技術を作業の『自動化・省力化』のツールとして活用し、現場の物理的・精神的負荷を軽減します。誰もがミスなく、スムーズに情報を共有できる仕組みを整えることで、『食のプロフェッショナル』として誇りを持って働ける、次世代の職場環境を構築します。



代表取締役 浅井輝彦